

## 新

新型コロナウイルスの3回目  
目のワクチン接種が進んで  
いるが、終息は見えない。  
それにもかかわらず、2022  
年度当初予算(国の一般会計)  
の税収見積もりが過去最高の65・  
2兆円となった。21年度も、当初  
予算の税収見積もり(57・4兆  
円)と比較して、法人税を中心に  
増収の見込みで、63・8兆円を超  
える可能性が出てきた。

増収の中心が法人税なのは事実  
だが、なぜコロナ禍にもかかわらず、  
22年度の税収見積もりが過去  
最高となったのか。このヒントは、  
1990年度の税収との比較で把  
握できる。17年度以前では、過去  
最高の税収だったのはバブル崩壊  
直前の90年度である。

このときの税収合計は60・1兆  
円であり、所得税収が26兆円(税  
収全体の43%)、法人税収が18・  
4兆円(同30%)、消費税収が4  
・6兆円(同7%)などだった。  
その後、所得税や法人税の税収が  
低下する一方、消費税の税収が増  
加し、22年度における税収見積も  
りは65・2兆円となっている。

65・2兆円の内訳は、所得税収

## なぜ2022年度の 税収見積もりが 過去最高になったのか

## 数字は語る

法政大学教授  
小黒一正

# 2020年度

国の一般会計における消費税収が  
所得税収を初めて超えた年度

出所：財務省

が20・4兆円(税収全体の31%)、  
法人税収が13・3兆円(同20%)  
だが、消費税収は21・6兆円(同  
33%)で22年度の最大の税目は消  
費税だ。つまり、90年度から22年  
度までに所得税収は5・6兆円減  
少、法人税収は5・1兆円減少し  
た一方、消費税収は17兆円も増加  
した。また、消費税収が法人税収  
を初めて超えたのは02年度だが、  
消費税収が所得税収を初めて超え  
たのは最近の20年度である。

なお、現在の消費税率は10%で、  
その中には地方消費税も含まれる  
が、89年に3%で導入された消費  
税は100%が国税であった。も  
し消費税率が90年度と同じ3%で  
あったなら、消費税収は8・4兆  
円と考えられる。このため、22年  
度の消費税収(21・6兆円)から  
この8・4兆円を引いた13・2兆  
円は、消費税率を3%から10%に  
引き上げたことよって得た税収  
増であることになる。

つまり、もし消費税率が3%で  
あったなら22年度の税収見積もり  
は52兆円(≡65・2兆円-13・2  
兆円)で、その見積もりが過去最高  
とはならなかったことを意味する。